

# 平成30年7月豪雨への対応について

(小田川3k400付近)

令和元年9月18日

国土交通省中国地方整備局



国土を**整**え、全力で**備**える  
国土交通省  
中国地方整備局



# 氾濫状況(高梁川水系小田川左岸3k400)

■小田川左岸3k400付近の堤防決壊のほか、支川の**高馬川**(たかまがわ 県管理区間)においても2箇所で堤防が決壊し、**多数の家屋等が浸水**しました。





# 堤防決壊箇所の緊急対策工事(高梁川水系小田川左岸)

■小田川左岸3k400及び支川高馬川<sup>たかまがわ</sup>右岸小田川合流点付近(倉敷市真備町<sup>まび</sup>箭田地先)の堤防決壊箇所において、24時間体制で緊急対策工事を実施しました。(最初の一週間で堤防締切盛土及び堤防法面保護のための大型土のうを設置。次の一週間で締切盛土は十分な転圧等がなされていないため二重締切矢板を設置。)

7月7日22時  
7月9日  
7月15日23時

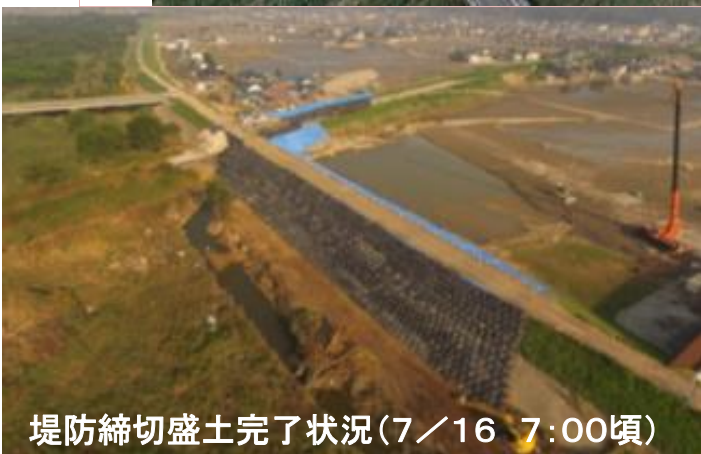
緊急対策工事着手  
堤防締切盛土着手  
堤防締切盛土完了

7月21日10時

鋼矢板による二重締切堤防完了(緊急対策工事完成)

完 成

## 緊急対策工事状況【被災直後】



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



# 小田川左岸3k400における『緊急対策工事』の状況

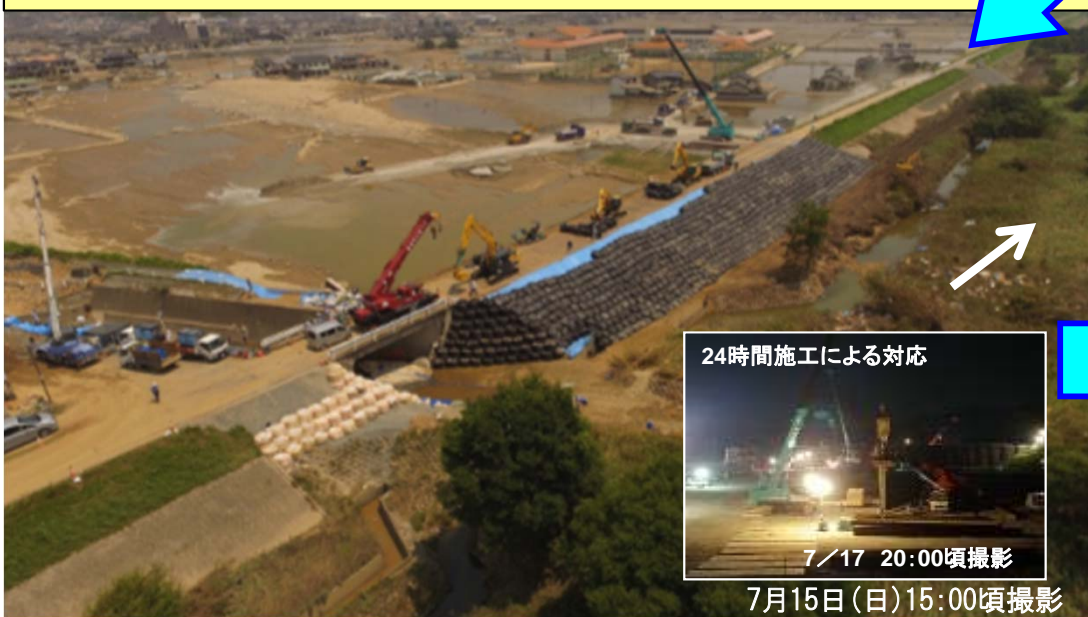
平成30年7月7日(土)22:00 緊急対策工事に着手(欠け口工完了済)



荒締切堤防(仮設堤防)の盛土作業中



川表の大型土のう設置作業中



7月21日(土)10:00 緊急復旧対策 完了





# 高梁川水系小田川堤防調査委員会の開催

- 倉敷市真備町では、国管理区間のみならず、岡山県管理区間でも堤防が決壊したことから、浸水被害の要因を一体で解明し、連携して対策を講じる必要があった。
- このため、国と県が共同で、被災原因の究明、本復旧の対策工法等を検討するため「高梁川水系小田川堤防調査委員会」を設置
- 8月21日に、専門家からの助言等を踏まえ、被災原因の究明、必要な対策方針・工法についてとりまとめ、災害復旧事業を申請

## 【第1回委員会】小田川左岸3k400付近及び6k400付近での現地調査状況（7月10日）



3k400付近



3k400付近



6k400付近

### 第2回委員会(7月27日)



開催状況

### 第3回委員会(8月10日)



開催状況

### 第4回委員会(8月21日)



開催状況

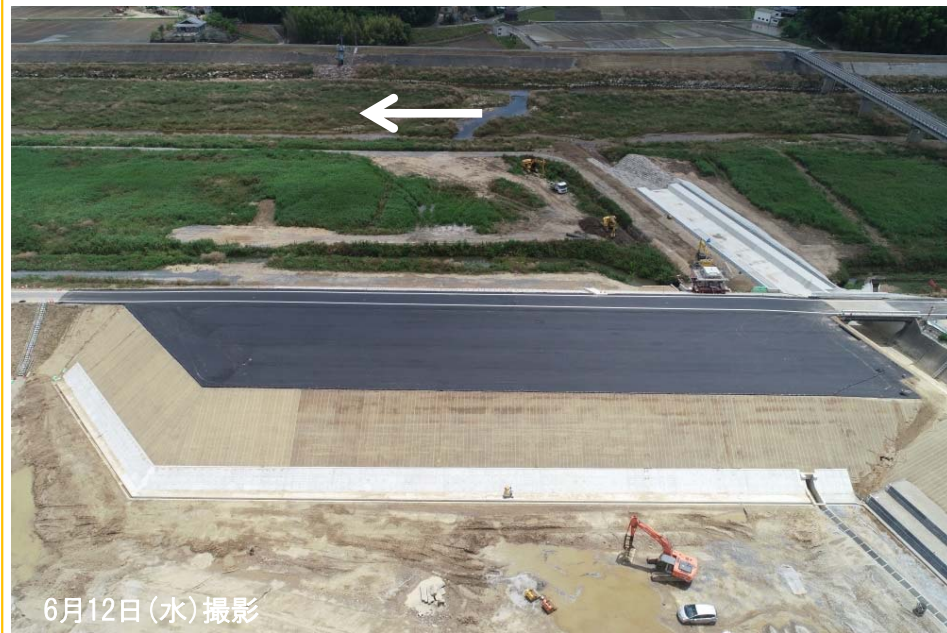
### 第5回委員会(10月30日)



開催状況

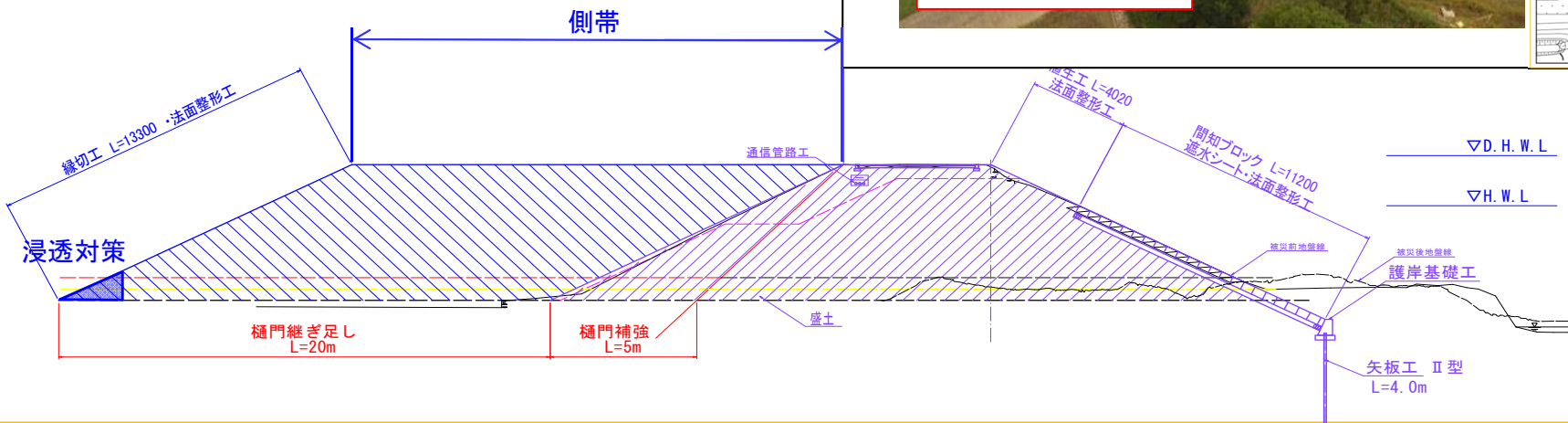
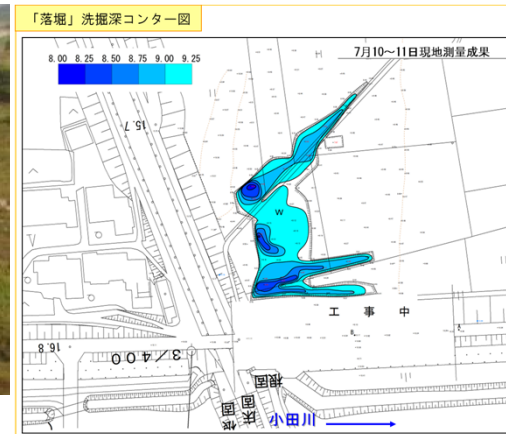
# 小田川左岸3k400における『本復旧工事』の概要

- 出水期の明けた平成30年10月31日より、本復旧工事に着手。
- 令和元年6月12日に本復旧が完了。地域の安全・安心を確保



- 高梁川水系小田川堤防調査委員会による決壊区間における対策の基本方針等（抜粋）
  - 災害復旧事業による堤防強化に加え、今後の河川整備や背後地の復興計画等との整合を図り、手戻りを発生させない。
  - 越水時に流れの集中する隅角部や、被災後の堤内側の地形変状等に対して、効果的かつ効率的な対策を選定する。
  - 「浸透」に対する対策（断面拡大等）は、堤防の弱体の要因として排除できないため、今後の手戻りを防止する観点から、今回合わせて実施することが望ましい。

➤堤防越水により広範囲に落堀が生じ堤防基盤が劣悪な条件であることを鑑み、側帯盛土を整備、浸透対策として法尻にドレーンを設置





# 小田川左岸3k400における『本復旧工事』の進捗状況

平成30年10月30日 本復旧工事に着手



荒締切堤防（仮設堤防）の撤去作業中



荒締切堤防（仮設堤防）の撤去完了



本堤防の復旧完了





# 本堤防の復旧【小田川左岸3k400】



令和元年6月20日撮影



- 真備地区まちづくり推進協議会（箭田地区）が、小田川の河川敷において、背の高い草や樹木の芽を踏み、樹林化の防止を目指す取組みを2019年4月から毎月1回実施。
- 第1回（4月6日）は約90名、第2回（5月6日）は約80名の地元住民が参加。





- 平成23年から地元の酪農企業が河川敷を占用（約30,000m<sup>2</sup>）し、牧草地として活用。

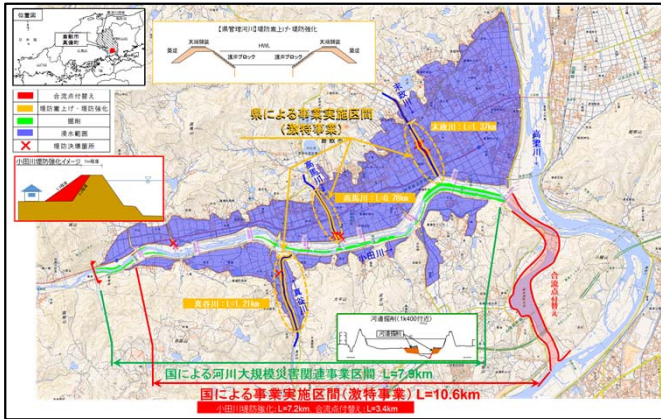


◆「真備緊急治水対策プロジェクト」の実施に向け、各関係機関の具体的な役割分担や実施時期等を定めた『真備緊急治水対策アクションプラン』を平成31年3月25日に決定・公表。

## 主なハード対策

### ■洪水氾濫を未然に防ぐ対策

- ▶国・県・市が連携・協力し小田川合流点付替えや河道掘削、堤防強化など緊急的な河川改修事業を実施



### ■避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

- ▶防災拠点の整備
- ▶円滑な避難行動や水防活動を支援するため、危機管理型水位計 (国：6基、県3基)を設置



## 主なソフト対策

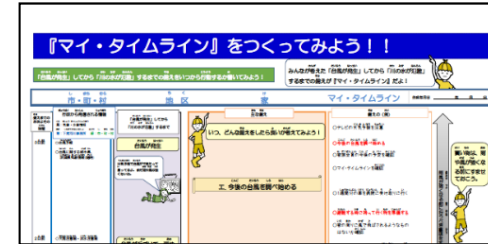
### ■広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知

- ▶避難場所の見直しや、命を守るために必要な情報の追加などハザードマップの改善
- ▶まるごとまちごとハザードマップ (電柱等に浸水位を表示)の整備・促進



### ■地域住民自身が作るマイ・タイムラインの整備

- ▶住民による地区防災計画の作成と早期避難を促すためのマイタイムラインの作成



### ■防災教育や防災知識の普及

- ▶小学生、中学生を対象とした防災教育カリキュラムを作成。
- ▶防災教育の実施

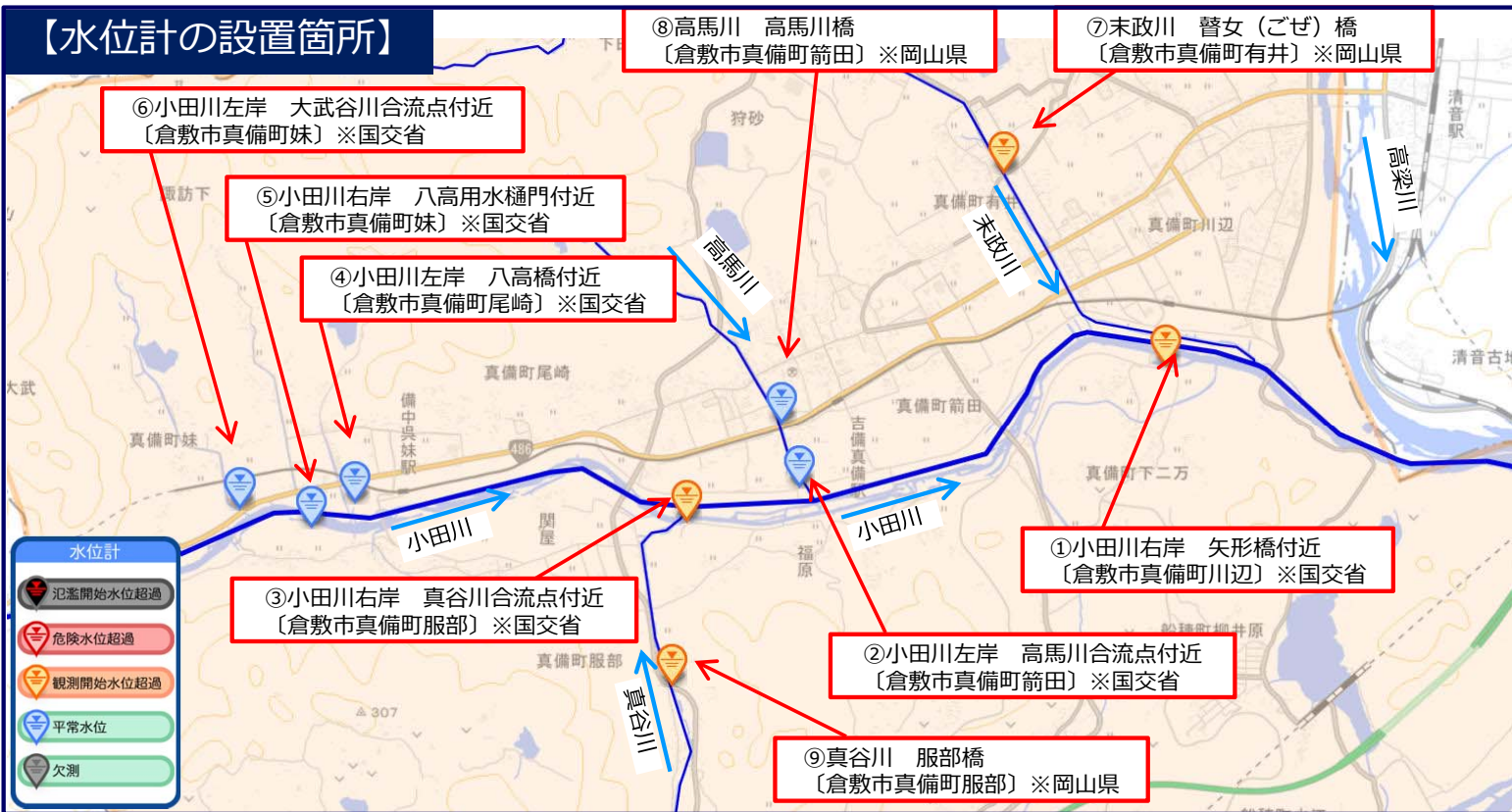




# 小田川等の危機管理型水位計の設置と地域住民への周知

- 小田川等において、洪水時の円滑な避難行動や水防活動を支援するため、**危機管理型水位計を9箇所設置済**  
(小田川に国土交通省が6箇所、支川末政川・高馬川及び真谷川に岡山県が3箇所設置)
- 倉敷市真備町の地域住民向けに、QRコードやホームページアドレスが記載してある「**携帯カード**」を作成し**配付済**

## 【水位計の設置箇所】



危機管理型水位計の設置状況  
(小田川右岸 矢形橋付近)



倉敷市真備町の地域住民に配付した携帯カード

スマートフォンでの水位表示例



# 防災に関する地域の取り組み（オレンジライン）

- まちづくり推進協議会（箭田地区）は、2016年から、小田川の堤防高をオレンジ色のラインを引く活動を実施。
- 堤防決壊時には、オレンジラインまで水が到達する可能性があるということを、地区住民に周知していた。



井原鉄道（吉備真備駅付近）



箭田小学校



